

経済透視図

⑭②

医薬品事業の成長に伴い、医薬品の製造を受託する医薬品開発製造受託機関（CDMO）が注目されている。背景には各モダリティ（治療手段）に対する製造ニーズが高まっていること、製造難易度の高まりやアウトソーシングの普及により多数の製薬企業が医薬品製造をCDMOに外注していること、一度受注を獲得できれば安定した収益が期待できること、一部モダリティにおいては他業種における製造ノウハウが活用できることなどが挙げられる。

自国でワクチン

パンデミック（世界的大流行）禍の教訓から各国政府は自国内でのワクチンや必須医薬品の製造を推進する施策を進めており、日本においても厚生労働省

CDMOの動向と展望

や経済産業省などが設けられたインデミック発生時には備投資や人材育成に對する支援策を打ち出し「デュアルユース」機能に對する施策が手厚

国際化・専門性高度化カギ

特に平常時ではバイク、事業成長とパンデオ医薬品を製造し、パミック対策の両方を視



SMBC日興証券
産業・サステナ
ビリテイ戦略部

藤安次郎

野に入れていることがうかがえる。

競争激化も想定

一方、遺伝子・細胞治療における創業研究、開発事業の停滞感、大げられる。グローバル

今後の成長のカギは、グローバル化と新興モダリティに對する専門性の高度化が挙げられる。

各CDMOは自国内での事業にとどまらず、広く受注機会を獲得していく能力が求められる。専門性の高度化に關しては、改変抗体や核酸、遺伝子治療および細胞治療などの製造難易度の高いモダリティに對する能力が求められる。CDMO事業が起点的な技術導入や製造設備への投資が必要になりそう。

食品や化学品も

CDMO事業は医薬品における「ものづく

型医薬品製造を製薬企業が一部内製化する動きなどに伴い、今後は製造発注件数の減少が懸念される。さらに参入企業の増加に伴う競争環境の激化も想定され、CDMOは継続的な事業成長に向けて厳

無断転載・複写禁止